

平成29年度 第4回 九州森林管理局保護林管理委員会の議事概要

- 1 日時 平成29年12月14日 (13:30~17:40)
- 2 場所 九州森林管理局 2階大会議室
- 3 議事 (1) やんばる森林生態系保護地域(仮称)設定(案)について
(2) 猪八重地区における保護林の設定(案)について
(3) 綾森林生態系保護地域の拡充(案)について
(4) 平成30年度保護林モニタリングの調査箇所及び調査項目(案)について
(5) その他



4 概要及び主な意見

(1) やんばる森林生態系保護地域(仮称)設定(案)について

① 概要

第3回九州森林管理局保護林管理委員会の審議結果、10月に行われたIUCNによる現地視察、関係者への聞き取り調査等課題整理、これらを踏まえて、最終的な区域の考え方を提示して、やんばる森林生態系保護地域(仮称)設定(案)について、審議を行った。

② 主な整理事項

- ・44, 46林班の我池川沿いの保存地区の設定については、支流を含めた形をすることとの意見に

については、保存地区の設定案については、既に支流を含めて、河川沿いを兩岸の尾根までをカバーしており、満たしているとした。

・県営林の63林班に接する国有林側の森林生態系保護地域の保全利用地区の設定の有無については、県の意向でこの林班及び周辺民有林とも伐採予定はないとしたため、保全利用地区を設けず、保存地区のままとした。

・42、43林班の東側部分の区域外を自然再生型の森林管理技術を生み出す試験地活用ができないかとの意見については、琉球大学との研究連携を模索・検討を進め、改めて報告とした。

・「首里城古事の森」の扱いについては、伐採方法や、施業方法等具体的な取扱い方針、計画について、協議会と協議し内容を詰めて改めて報告とした。

・やんばる森林生態系保護地域については、以上の課題整理を経て、保護林委員会としては、この案で了承する。

この後、12月の沖縄防衛局からの引き渡しが予定され、(仮称)、(案)がとれて、正式に保護林として施行する運びとなる。

(2) 猪八重地区における保護林の設定(案)について

① 該当

第3回九州森林管理局保護林管理委員会での審議内容を反映した、猪八重地区における保護林の設定(案)について審議を行った。

今回の審議で出された課題等を踏まえた、設定(案)を事務局で作成し、次回委員会で検討することとした。

② 主な意見

・猪八重地区に接するレク森の箇所、楕状の沢沿いの箇所について、沢登りの利用者があることから、レク森として残したいとのことであるが、利用者はごく少数であり、地域振興のためとは言え、別にセラピールートなどもあること、また、海外からの訪問者は、レク森とあれば、大量に押しかける恐れもある。

なお、ここは多様な希少種が生育する原生的な箇所であるので、保護林に含め一体として保全してすべき

・レク森に接する地域で、保存地区が直接接している部分がある。利用者の安全確保を図る意味でも保全利用地区を設定し改善すべき。

これについて、改めて、林野庁からの状況把握の上で、保護林委員会の意見を踏まえ、レク協、地元意向等との意見のすりあわせ、調整を図り、再検討とした。

(3) 綾森林生態系保護地域の拡充(案)について

① 概要

保護林制度の改正に伴い、郷土の森が新たな保護林区分から除外されることとなり、協定相手方の綾町に意向確認を行ったところ、新たな保護林として設定してほしいとの要望があったこと

から、森林基礎調査を行った。

調査の結果、一部区域において原生的な天然林が存在することがわかったため、隣接する綾森林生態系保護地域に統合する案が事務局から提案された。

今回の審議内容を踏まえた、拡充（案）を次回委員会で審議することとした。

② 主な意見

・資料説明のうち、拡充部分の説明が不十分。特に、変更前、変更後のデータについて、保護する必要があるとする箇所についての資料・説明が不十分。ゾーニングの考え方について、もう少し簡潔、明確に説明を。

・報告書の内、具体的取り組みについて記載が無い。管理方針書とのリンクがない。人員と予算の関わりなど具体的記載が必要では。

これらの指摘は、すべての保護林の管理方針書に共通する課題。個々で強調すべきこと、管理上必要なこと、留意することなどを記載するべきで、管理方針書の内容は、今後改めて検討すべき。

・小規模なスギの植林地について、歴史的、文化的観点等から残置し・・・とあるが、その背景が何か不明。もう少し丁寧に書くこと。

・郷土の森 2041 林班の区分について、再検討について要望があった。

・拡充について、委員会として問題は無いとの受け止め。しかし、今回の拡充案については、委員会としては保留とし、再度、わかりやすい資料整理、方針書記載を工夫し次回委員会で、改めて提示すること。

今回の保護林委員会の意見を踏まえて、個別の利用のあり方、具体的にいつ誰がどのように対策をするかなどについて、今後の検討課題とした。

（４）平成 30 年度保護林モニタリング調査箇所及び調査項目（案）について

①概要

今後の保護林のモニタリング調査については、今後、順応的管理の考え方を取り入れた新たな調査方式とすることについて、了承された。

緑の回廊のモニタリング調査についても、今後、保護林管理委員会において議論していくこととする。

資料一覧

【議事次第・出席者名簿】

【資料 1-1】 やんばる森林生態系保護地域（仮称）設定（案）

【資料 1-2】 やんばる森林生態系保護地域（仮称）管理方針書（案）

【資料 2】 猪八重地区における保護林の設定（案）

【資料 3】 綾森林生態系保護地域の拡充（案）

【資料 4-1】 順応的管理（PDCA サイクル）を取り入れた保護林モニタリング調査

【資料 4-2】 平成 30 年度保護林モニタリング調査の考え方（選定方法）

【資料 4-3】平成30年度保護林モニタリング調査項目のイメージ

【参考資料 1】保護林設定管理要領

【参考資料 2】沖縄北部国有林の今後の取り扱いについて

【参考資料 3】平成28年度沖縄北部国有林森林環境現況調査業務調査報告書

【参考資料 4】米軍沖縄北部訓練場返還地における施設位置図

【参考資料 5】保護林モニタリング調査マニュアル

平成29年度 第4回九州森林管理局保護林管理委員会出席者名簿

	氏名	所属・役職	
委員	伊澤 雅子	琉球大学 理学部 教授	欠
	河野 耕三	綾町役場 エコパーク推進室 照葉樹林文化推進専門監	
	木口 実	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	
	佐藤 英章	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場長	
	佐藤 和歌子	特定非営利活動法人 森林をつくろう 理事長	
	中尾 忠規	熊本県 自然保護課長	
	浜本 奈鼓	特定非営利活動法人 くすの木自然館 代表理事	
	藤掛 一郎	宮崎大学 農学部 教授	
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参事	
	米田 健(委員長)	鹿児島大学 名誉教授	
	篠原 武夫 (オブザーバー)	琉球大学 名誉教授 (※)	

※沖縄北部国有林の取扱いに関する検討委員会座長（当時）

（委員50音順、敬称略）